

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果
ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名	福島区
学 校 名	上福島小学校
学校長名	池田 眞一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立上福島小学校では、第6学年 52名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数・理科3教科とも大阪市平均、全国平均を大きく上回る結果であった。平均正答率は全国平均と比べて、国語5.2ポイント、算数9ポイント、理科2.9ポイント上回っていた。また、平均無回答率は全国平均よりも低い大阪市平均と比べてもさらに、国語1.3ポイント、算数・理科は1.4ポイント下回っていた。それぞれの児童が問題に取り組んでいることがうかがえる。

児童質問紙における肯定的な回答をした児童の割合は多くの質問において、平均または平均を上回っている回答が多かった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」で正答率が高い。特に、「漢字を文の中で正しく使うことができる」問題では、正答率が92.3%と、全国平均（82.1%）を大きく上回っており、語彙や漢字の知識が定着していることがわかる。一方で、与えられた情報をもとに自分の考えをまとめ、記述する問題の正答率が、大阪府や全国よりは高いものの、他の問題の正答率に比べるとやや低くなっている。

【算数】各領域（数と計算、図形、変化と関係、データの活用）の正答率が全国平均を上回っている。特に、「数と計算」の領域では全国平均を大きく超えており、計算技能や数に関する知識がしっかりと定着している。分数に関する問題では、「異分母の分数の加法の計算」の正答率が94.2%と非常に高く、計算の基礎が身についているといえる。分数の意味を理解し、その過程を説明する記述問題の正答率が大阪府や全国よりは高いものの、全体の問題と比較して低くなっている。

【理科】平均正答率は大阪府、全国ともに上回っている。領域では、「『生命』を柱とする領域」で全国平均をわずかに上回っていた。一方で、「『エネルギー』を柱とする領域」や「『粒子』を柱とする領域」は全国平均を上回っているものの、国語や算数と比較すると、全国との差が小さい傾向があった。電磁石の働きについての問題の正答率が高く、実験結果から法則を導き出す力が身につけていることがわかる。しかし、実験結果を分析し、そこから新たな問いを立てる記述問題の正答率は、全国平均を下回っており、理科の記述問題に課題が見られた。

質問調査より

「学校に行くのが楽しい」や「自分には良いところがある」の肯定的回答率90%を超えており自己肯定感や日々の学校生活に対して満足感があることが感じられる。そのことは、「先生が、良いところを認めてくれる」の肯定的回答率が高いことから推察される。「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」や「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定的回答が全国平均を上回っていることから、友達との意見交流を通して自身の考え方を深めていく取り組みが、児童の活動意欲や学力向上につながっていることがわかる。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定回答のみで90%、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的回答で93%であり、自己有用感を感じ、他者への意識が向き、地域や社会に貢献したいという思いを強く持っている児童が多い。

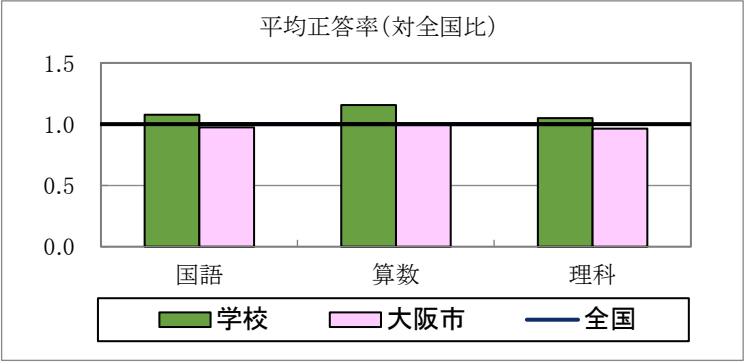
今後の取組(アクションプラン)

本校の児童は、基礎・基本の学力の定着度は高く、学習意欲も高い。しかしながら、今回の調査において、記述問題に対して課題がある結果となった。今後、各教科において、記述問題に対する苦手意識を低下させていくことが必要である。また、さらなる学力の向上については、自分の考えを論理的に記述・表現する力の育成が必要である。今年度は、日常の授業の中で「自分の考えを表現する」活動を積極的に取り入れるように研究を進めてきており、授業の中でも交流する時間を意識して授業に取り入れるようにしている。学習者用端末をはじめとしたICT機器を活用しながら、児童自身が自分の考えを自身にあった方法で「表現」できるように、教職員が教材研究や授業展開の工夫を継続的に行うようにし、児童が主体的に発信できるような授業を目指していきたい。

【 全体の概要 】

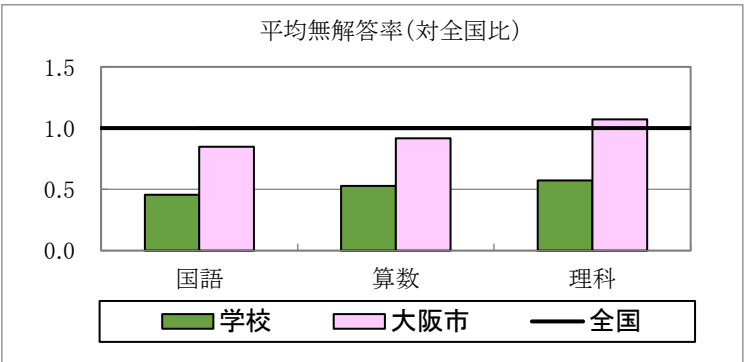
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	72	67	60
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	1.5	1.9	1.6
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

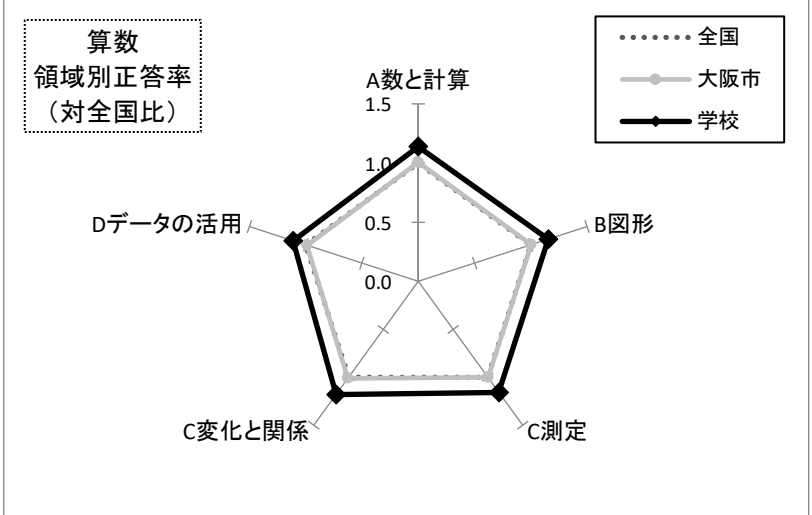
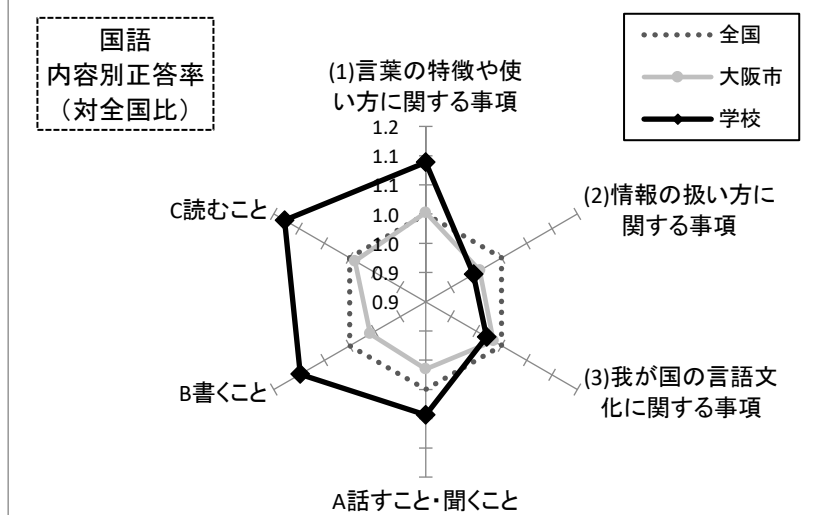
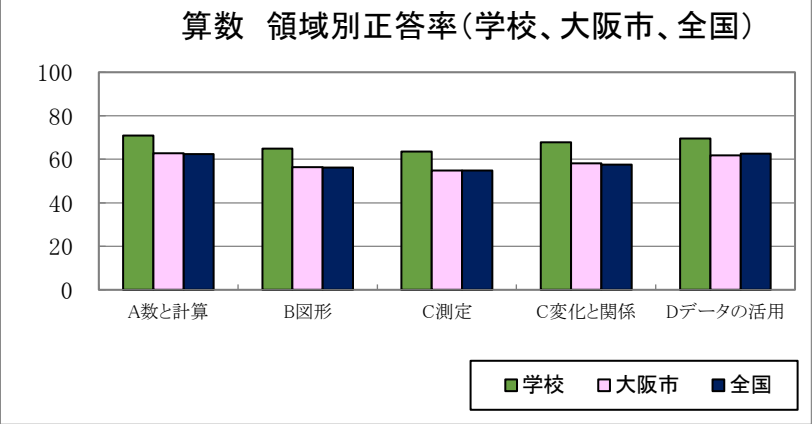
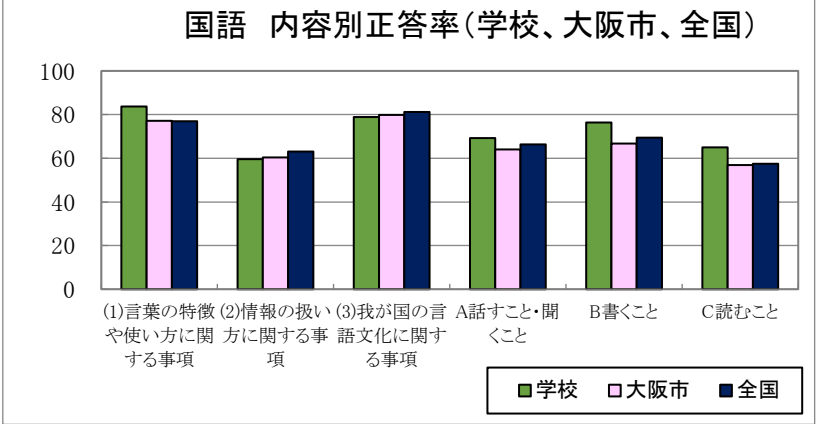


【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	83.7	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	59.6	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	78.8	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	69.2	64.0	66.3
B 書くこと	3	76.3	66.7	69.5
C 読むこと	4	64.9	56.9	57.5

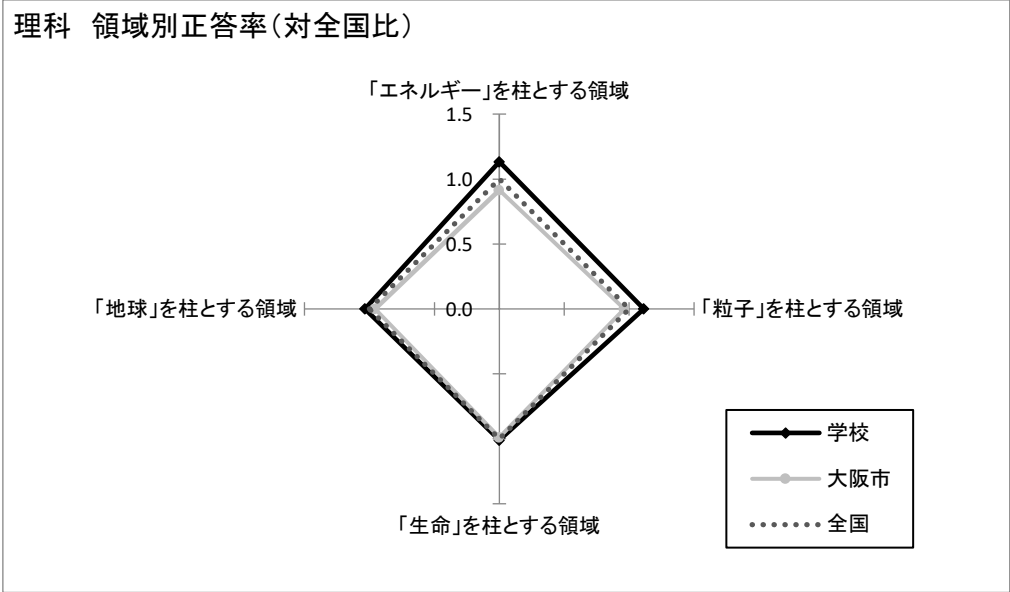
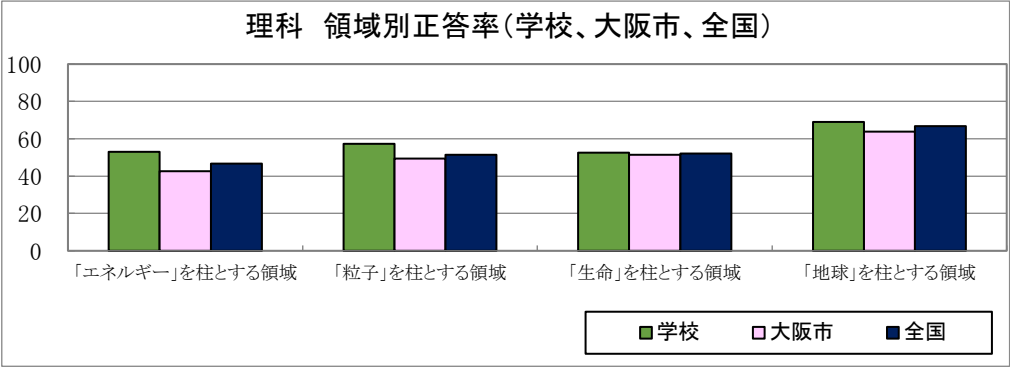
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	70.9	62.7	62.3
B 図形	4	64.9	56.4	56.2
C 測定	2	63.5	54.9	54.8
C 変化と関係	3	67.9	58.2	57.5
D データの活用	5	69.6	61.9	62.6



【 理科 】

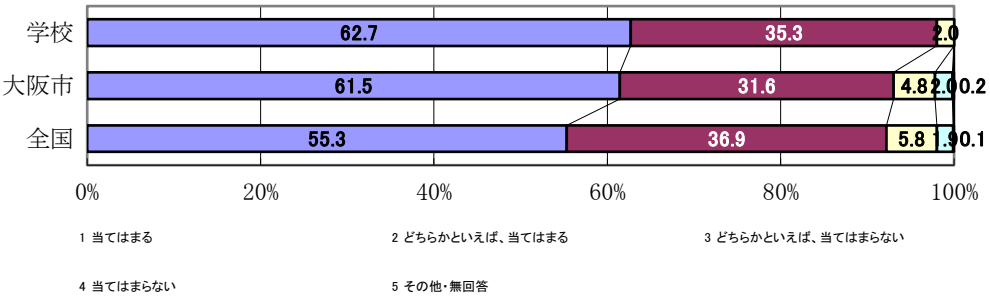
学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	52.9	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	57.2	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	52.5	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	69.0	63.8	66.7



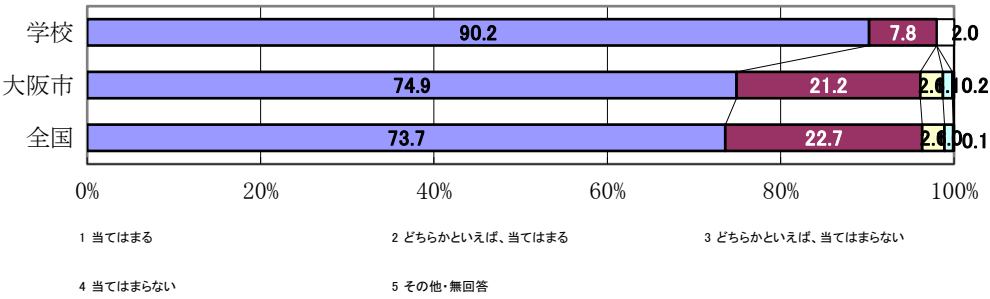
児童質問より

質問番号
質問事項

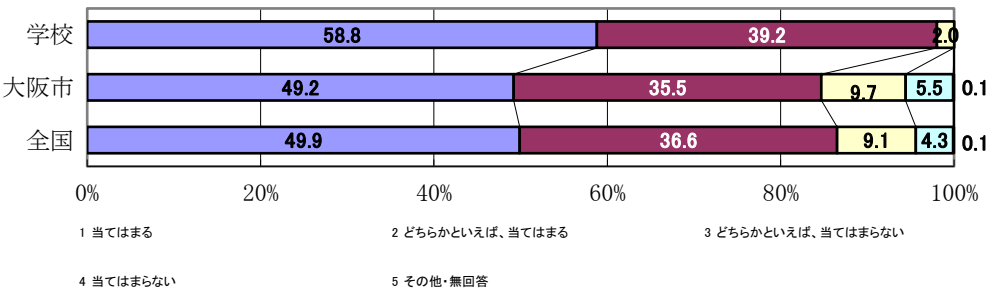
6
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



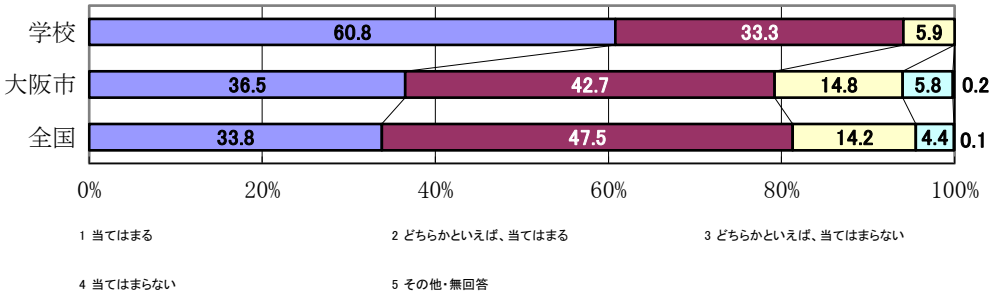
11
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



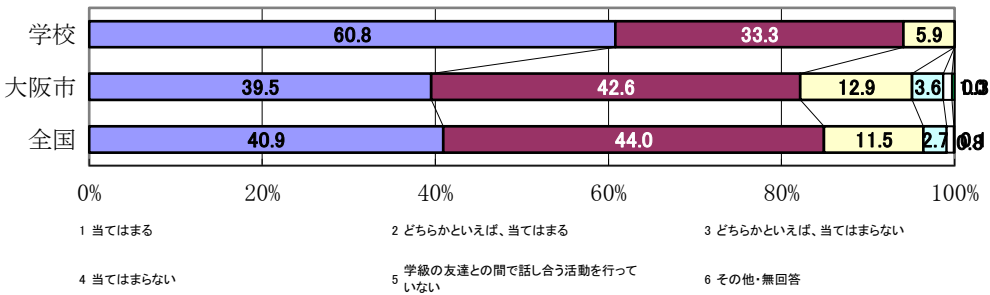
12
学校に行くのは楽しいと思いますか



27
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



35
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

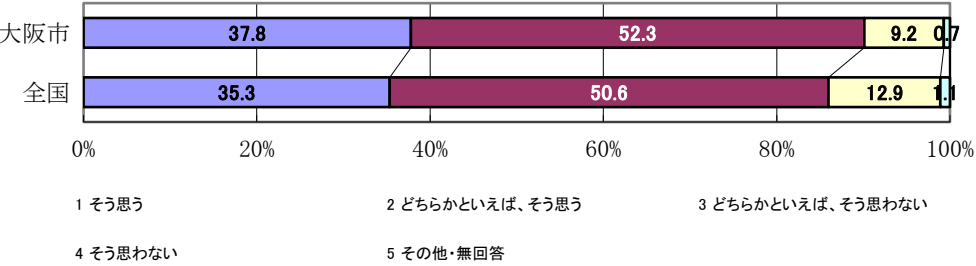


質問番号
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

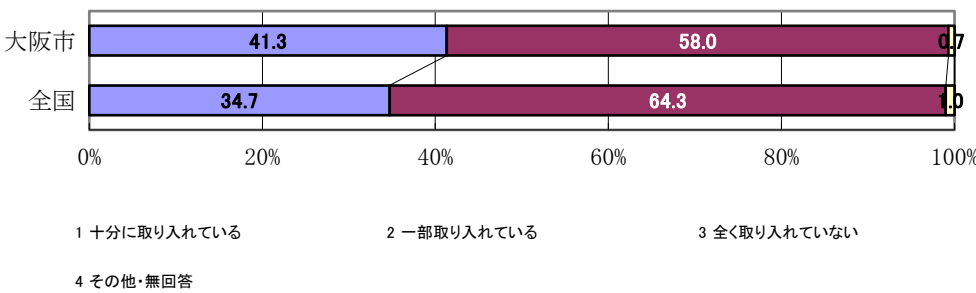
学校 「そう思う」を選択



13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

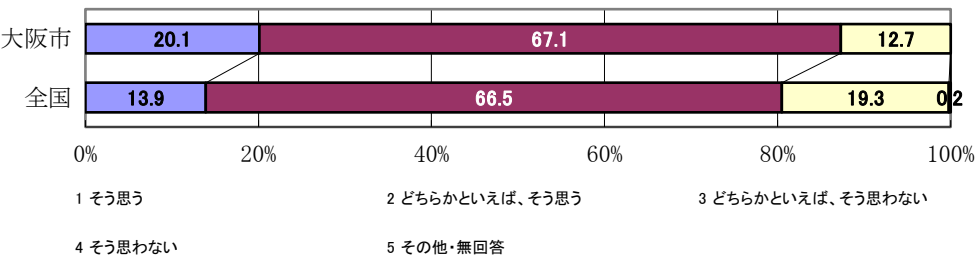
学校 「一部取り入れている」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

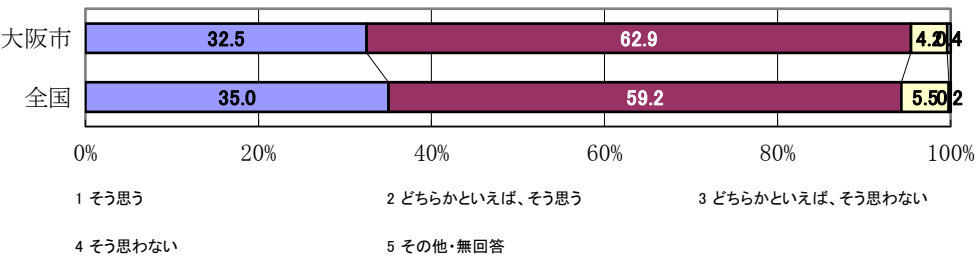
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

学校 「そう思う」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」を選択

